

岩崎良文先生を偲んで

人づてに岩崎良文先生が昨年8月2日に亡くなられたと伺ったのは今年の1月のことであった。享年75歳であった。

先生は滋賀県のご出身で1959年京都大学医学部のご卒業である。1965年医学研究科博士課程修了後、長く京都大学医学部及び同付属病院に勤務されたが、その間に4年間アメリカに留学されて研鑽を積まれた。

本学家政学部教授に就任されたのは1982年のことであった。実は私もこの年の入社であり、年齢は違うが同期の桜ということになる。入社式で一緒させていただいたのが先生との最初の出会いであった。緊張気味の私に「まあ、よろしく願いしまっさ」と例の気さくな笑顔で声をかけてくださったことを覚えている。

本学では、栄養生理学研究室で、臨床栄養学、解剖生理学、解剖生理学実験、病理学などを担当され、2000年3月の定年退職まで18年間にわたり、多くのゼミ生を始め管理栄養士の養成にご尽力くださった。生活科学会との関係でいえば1989年に会長を務められた。

就任された頃、家政学部にはいろんな分野の人間がいるから共同で何かおもしろいことができるかもしれないよ、研究会をしませんかとお声かけされ、有志が何度か集まって勉強会を開くようになった。しかし、皆何かと忙しく毎回のメンバーが固定せずいつしか立ち消えになってしまったのが残念なことである。実は忙しさを口実に勉強をさぼってしまっていたのかもしれない。先生に大変申し訳なかったと今にして思う。先生のご講演を聞かせていただく機会が何度かあったが、難しい話をとてもわかりやすくされるので、医学分野の進歩をあらためて理解でき、ありがたかった。学生の話では授業も簡潔で要領を得ているとの定評であった。先生はなかなか話題豊富でユニークな観点から話題を振られることが多かったが、「あんた、どう思う？」と決して自分の考えを押しつけることはなかったように思い出される。

定年退職されてからはお会いすることもなく、ご無沙汰ばかりであったが、久しぶりのニュースが訃報だったのは同期の桜としては、悲しいことである。

先生の本学でのお働きに改めて感謝するとともに、心よりご冥福をお祈りしたい。
(同志社女子大学生生活科学通信 No.53, 2012年5月, より転載)

食品化学研究室 森田 潤司